

続・学びの実感

買い物をしよう

◇平成29年度から完全実施される「外国語」教育。
英語がとても堪能な伊勢先生が「こんな感じで学習を進めてみては？」という思いからの実践授業でした。

◆事後検討会から…

《自評》

◎伊勢先生…

- ・今後の外国語の学習のために取り組んでみました。
- ・Hi friend'sにおいては、単元の構成（流れや縛り）はほぼありません。文科省のHPに単元構成表は存在はしますが、あくまでも参考程度…なのですよ。
- ・一単位時間の構成の割合は、ゲームやチャンツが60%。発音や文章（話形）の学習が40%が一般的。
- ・デジタルコンテンツを使うとネイティブな発音も聞くことができますので是非ご活用を。
- ・大変なのは…教材作りですね。幸い古城はたくさんそろっています。自分たちで作った教材も残しておく、あとから取り組む先生方も楽だと思います。
- ・気を付けたいことは、最低一人一回発言をさせること。一言言えるだけで、喜びとなり、意欲になると思います。
- ・外国語を楽しみにしている児童は多いです。しかし、児童のテンションをある程度押さえることも大切だと思います。



《参観者から》

- ・話したい、答えたい…と思うところが英語のいいところ。今回の授業では、使う機会も多かった。
- ・曜日の発音は難しいですね。自分だけだとサラッと流して終わりにしてしまいそうです。
- ・子供たちが楽しんでいたので印象的でした。
- ・他の教科学習が苦手な児童でも、外国語を終えると教室でも使っている児童がいます。
- ・いずれ中1の学習内容が小6に下りてくるそうですよ。大変…。
- ・教師のカードが、児童の興味を引く

ものなので良かったと思います。

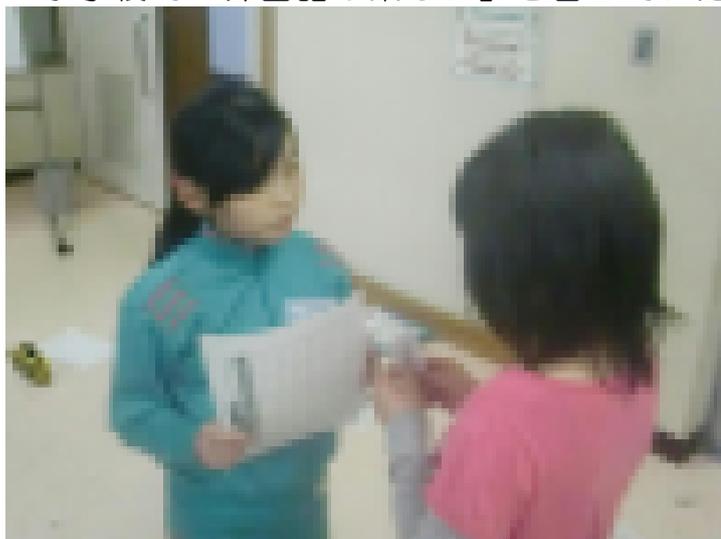
- ・日本語で全てを説明してしまいがちだが、今回の授業を見て、英語と日本語のバランスがとても良いと思いました。

- デジタルコンテンツの重要性を再確認できました。
- 今回の飴（ご褒美）のためにカードを交換するのはやりがちなが、ゲームを通して考えることも良い経験になると思いました。

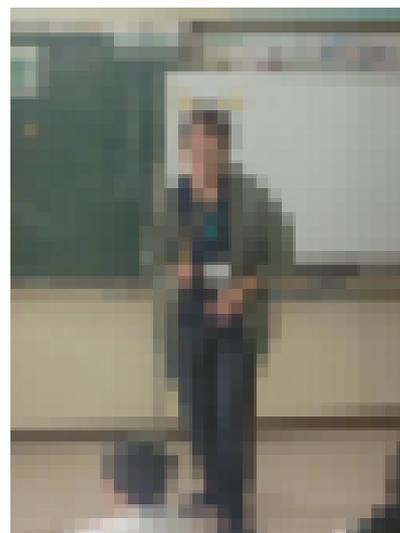


《事後検討会から聞こえてきた 今後の心配なこと》

- 子供学習に対する意欲と学びのレベル（学ぶこと・話形）とのバランスが難しい。
- 塾などで習っている児童が得をするような授業内容では、初めて学習する児童が苦手意識を持ってしまふかもしれないので心配。
- 小5のレベル程度が一番意欲的に活動できる想です。簡単すぎると意欲が低下し、難しすぎると…。
- 中学校との交流を増やす必要があるのではないのでしょうか。ネイティブな発音は聞かせたいですね。でも、ALTを毎回派遣してもらうのは難しいでしょう。
- 中学校からの要望は、最低でも「ローマ字で大文字小文字を書ける読める」程度はマスターさせてほしいと言っていました。
- 小学校で「外国語が楽しい」と言っていた児童でも、



中学校に行くと「英語がつまらない」と言うそうです。文法、単語等の学習がメインになったためだと思われる。そのようなことが小学校の中で起きないようにしなければなりませんね。



◆課題のリレー

- （有効…○ 課題…●）
- 児童の興味関心を引くカード類やICTの活用
 - ちょっと背伸びすれば取り組めるような課題の設定の難しさ

次回の研究授業は…全校授業です。

12月11日（木） 2時間目
5年1組 「面積も求め方を考えよう」三塚学級

自習体制をしっかりと組んでや授業を参観しましょう。